



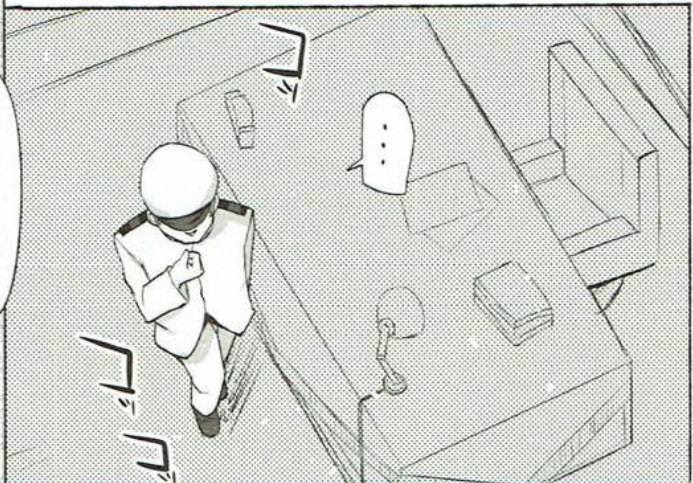
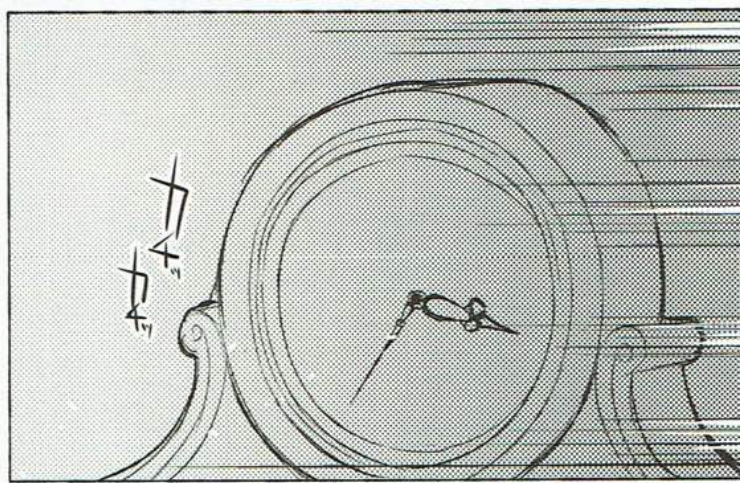
隊 遊 撃 一 十六 隊

**LOVE
IS THE
DRUG**
成年コミック



提督、艦隊が
帰還したぞ
損害は小破が
僕含めて二人

今日も特に問題は
発生しなかった
安心してくれ



失礼する

メカチャ



初月っ、
初月っ……！

それに彼に
心配されるのも
悪い気分ではなし



もう少し僕達を
信用してくれ

勿論、提督が僕を
信用しているのは
わかっている



ああ……
良かった……
心配したぞ！

またそんな……
お前は少し
過保護すぎるな

帰還後、そのまま
僕は彼の部屋で
愛し合う

初月っ……!!
気持ちいいかい?

あ……
あ……

あっ、ああ……
勿論っ!

それが彼との
なつつもの日課に
なっている

さて……
そろそろ
いいかな

またかい?
まあ、僕は
イヤではないけど

最近、その日課に
新しいモノが
入ってきた

それが
このクスリだ



最初は当然
僕だつて
不審に思った



初月、飲んで
うん……

はい



その、初月を
もつと気持ちよく
してあげたくて

そういうのは
僕はいいいよ……
今でも十分
だからさ

そうか……
ならいいんだ



提督、そんな
危なそうなもの
大丈夫なのかい？

一応合法の範囲、
だろうだ



さ

……



それが、
効果観面だった

でも、お前が望むなら
一度試してみようか



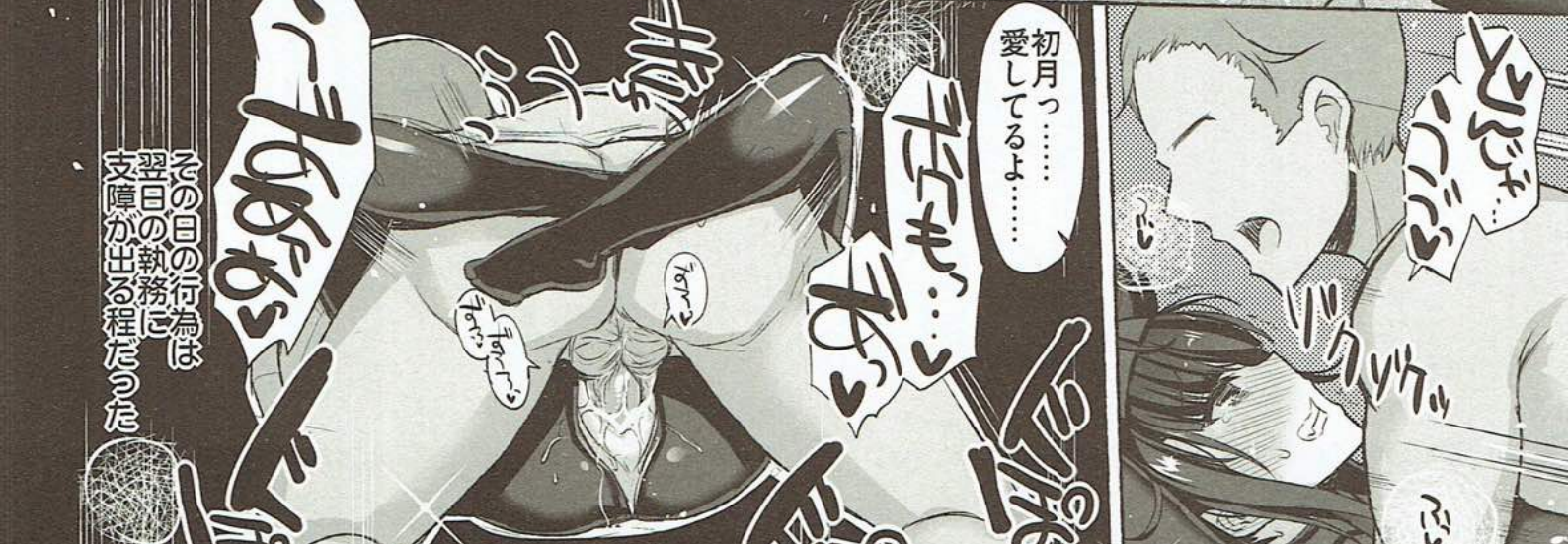
初月、
どうだい？

とにかくクスリは
僕に良く効いた
タカが外れた
みたいになつて



強い高揚感に
僕は提督を
求め続けた

こんな感覚は
初めてだった



初月っ……
愛してるよ……

その日の行為は
翌日の執務に
支障が出る程だった

それ以降、
毎日の様に僕達は
クスリを使った

提督……
来てくれ……

提督曰く
副作用の心配も
無いようだ

あまりにも
効きすぎるから
不安だけど

僕自身、生活に
支障が出ている
ワケでもない

それに
彼が僕にウソを
つくとは思わない

お前は……
気持ちいいかい??

変な気分だが
クスリを使う事が
信用して僕を提督を

ああ……っ
凄く締まって……
たまらないよ

提督が僕を
信用しているコトが
解る気がする

初月っ……
そろそろ
射精すよっ！



今日も僕は
何度も強い絶頂を
味わうだろう

初月、
もっと……っ

今日は帰遠が
早かった分
愛し合う
時間も長い筈

ぐあっ……



いつも悪いな、初月
出撃後にこんな……

ん……

本当にそのまま
一晩中になんてな、
お前は困った奴だ

いいんだ、
僕だってお前の事が
欲しくなるから

ほら、補給は
大切だろ？

ははっ……
そうだな



それに、僕は
もっと強いクスリ
でも大丈夫だと……
思う



でも、流石に
ああいうクスリは

イヤじゃないさ



その言葉が
自然に出たのは
僕自分驚いた

もしかしたら、
思っている以上に
僕はクスリに
依存しているのかも……

ちょっと……っ
恥ずかしいから
あまり見ないでくれ

わ、悪い初月……

身体...
溶ける...

提督を僕の
奥深くで感じる...



すまない...
気持ち良過ぎて
止まらない...



こんな気持ち...
続けたり
おかしくな...

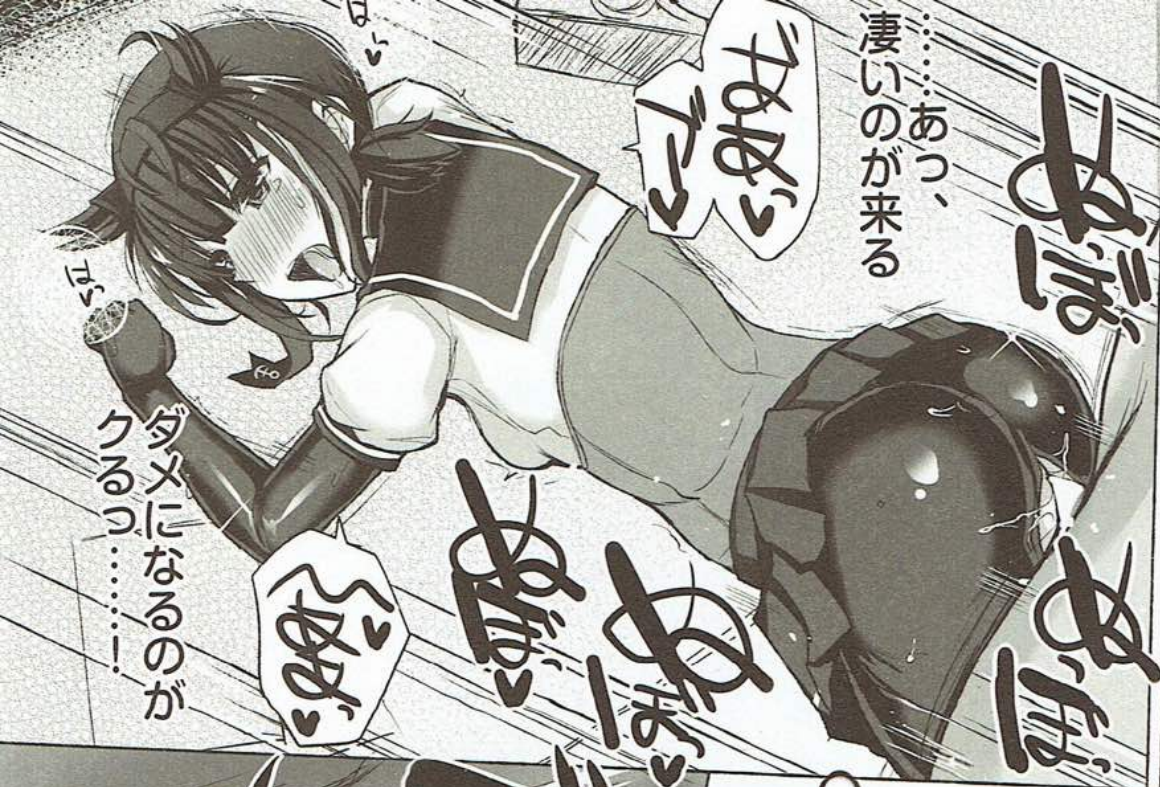
いや、僕が
既におかしく
なっているか
ごまかして...

僕は今ウソを
気持ちは
なりの過剰...



初月は
どうだ??





……あつ、
凄いのが来る

……
はああつ

限界だっ……

初月ッ……!

あいつ

あいつ

あいつ

あいつ

あいつ

あいつ

ダメになるのが
くるっ……!

あいつ

あいつ

あいつ

あいつ

あいつ

あいつ



あの初月がっ...
こんなっ...!

その日の提督は
いつもより
乱暴だった



すまないっ...
こんな風にっ...!



俺がっ...
初月をっ...!

僕をモノみたいに
扱って...



す、吸われるッ...

お互い、身体より
心がクスリで...
のかもしれない



初月...
初月...!



別の薬も
合わせてみようか…
今日は使う気は
無かったんだが…

そのまま、
舐め取って…

ん…

んんん

んんん



んんん…

んんん…

んんん

んんん

んんん

コシッ…
頭が追いつかない

んんん



クスリのせいであらう…
どくどくと頭が
悪くなってるのが
解る…っ！

初月ッ…
がっつき
過ぎだから…！

でもっ…
提督が望むなら
いつだって…

う、おっ！



アッ

アッ



その日以来
みっともないが……

僕は本当にクスリを
使つて抱かれる事に
溺れてしまつていた

提督、それでその……
今日は……
どうするんだ？

何を僕に使う？

アッ

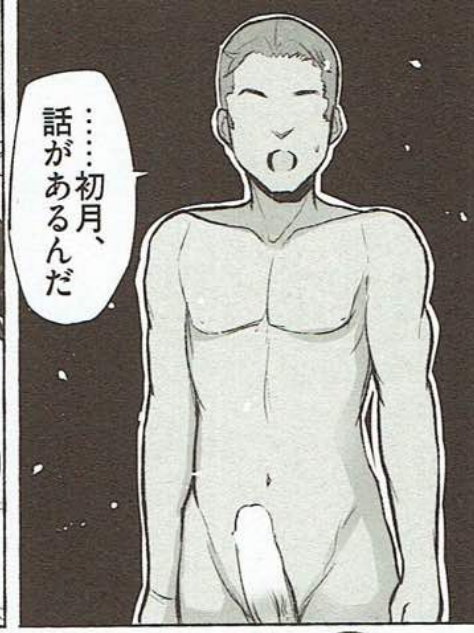
ねえ……



えっ、ちょっと！
提督ッ！



？



……初月、
話があるんだ



初月、実は
今まで使ってた
クスリは偽者だ……

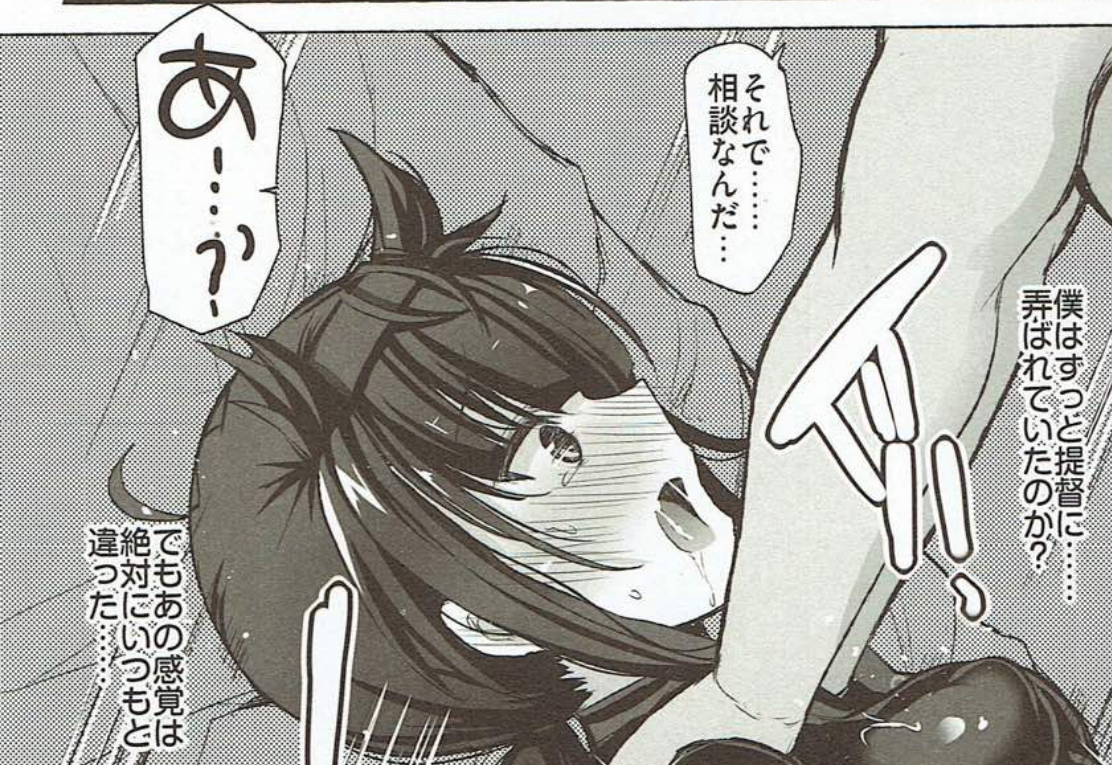
な……

嘘……
……？

いつも、自分が
控えめな初月が

気分を変えられる様に
俺が用意したんだ

……？



それで……
相談なんだ……

僕はずっと提督に……
弄ばれていたのか？

あ……？

でもあの感覚は
絶対にいつもと
違った……



……そんなっ

じゃあ、僕は
偽者のクスリで
あんなに……？



初月……
こんな事
ダメなのは
当然解っている

はい

お……

応酬物から
少しだけ
拝借してきた

僕の頭が
混乱している

提督も、
クスリも……



今、俺が
飲んだのは
……本物だ

はい



だから……!

お前の
気持ちは
わかった



だけど、
あれだけ乱れる
初月を見ていたら

本物だったらと
考えると

……

全部ウソなのか
本当なのか
解らないのか
けど……

もう、抑えが
効かないんだ……



いいよ……

提督、
お願いだから

僕の事を滅茶苦茶に
したいのだけは解る

僕にも
そのクスリ、
使ってくれ……

提督がとても強く
僕を求めている
それが、
たまらなく
嬉しいんだ……



もうこんなに濡れてるな

初月、いいな……？

それは……お前のせいだろ、いつもあんなにスるから……



ああ……

指から伝わる鈍いざらついた感覚
その、僕の身体が覚えてるんだ



解ってるよ

提督、ちやんと責任取ってくれないと怒るぞっ……!!



触った所がピリピリするな、けど、これはいつもより……

ああ……ああ……



急に回りが
冷たくなって
みたくになって

寒いのにな……
外に溶けてる所がある
僕が溶けてる……
みたくになって……

凄く怖……
……

……

僕が無くなって
しま……



は、初月
俺ももうっ……!

……



提督が
キ、キたあ……

……



初月っ……
おっ……

これっ……
やばいぞっ……

凄く熱くて

いつもと
全然違うッ

頭がつ、
気持ち良いのが
どこまでも広がるッ

初月っ……
もっ……

本当に
まずいッ……



初月は俺のモノだって……!

提督のが僕を押し広げて

解らせる……

奥の奥まで、染み込んでくる……!

凄惨……

絶対に、誰にも渡さないからなッ……!



こんなのと比べたら僕たちがシてきたのはお遊びじゃないか

お前を滅茶苦茶にできるのは俺だけなんだ……

今、本当に……



これを知ったら

愛してる……

……もう、戻れない



壊れていく
しかないんだ……

このまま二人で
どこまでも
滅茶苦茶になって

クッ! クッ! クッ!

クッ! クッ! クッ!

クッ! クッ! クッ!

クッ! クッ! クッ!



初月っ
もうっ……

クッ! クッ! クッ!

クッ! クッ! クッ!

クッ! クッ! クッ!



ヘビィ 大爆発

ヘビィ 大爆発

クエスチョン

ヨ

ヘビィ
大爆発

ヘビィ 大爆発

もうすぐ
僕が……
終わる……

ヘビィ



いいんだ、初月
少し嬉しい位
なんだから

……そういう
モノかな？

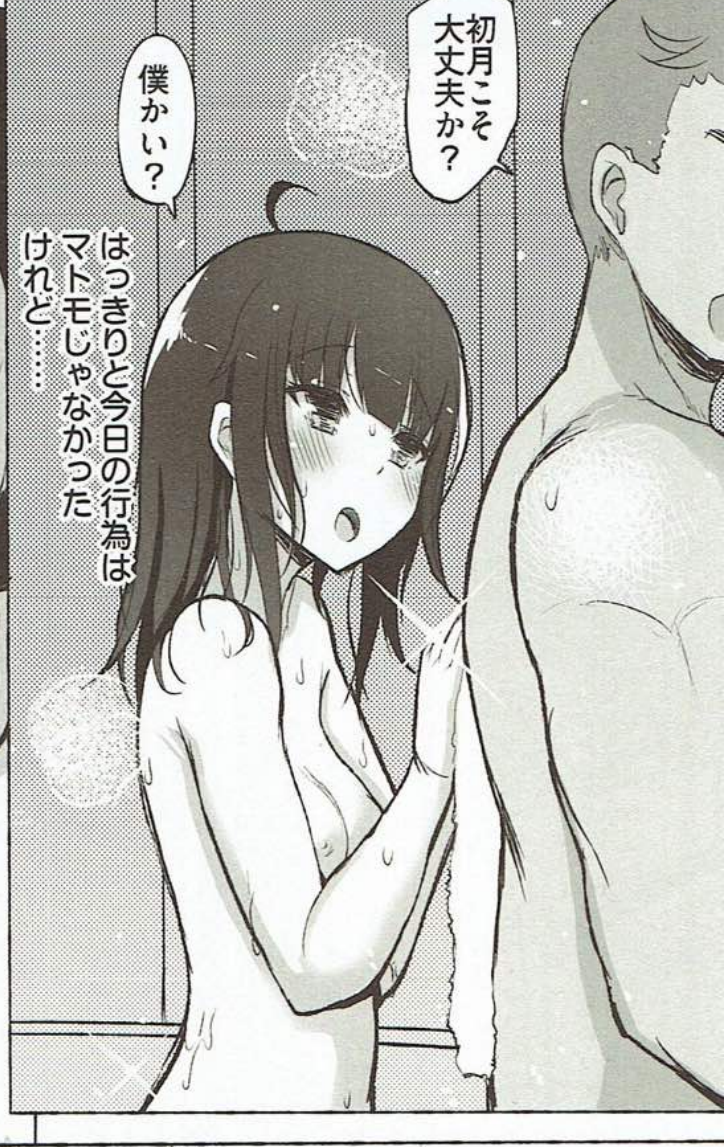


すまない……
お前を傷つけて
しまったみたいだな



僕はその時提督に
初めてウソをついた

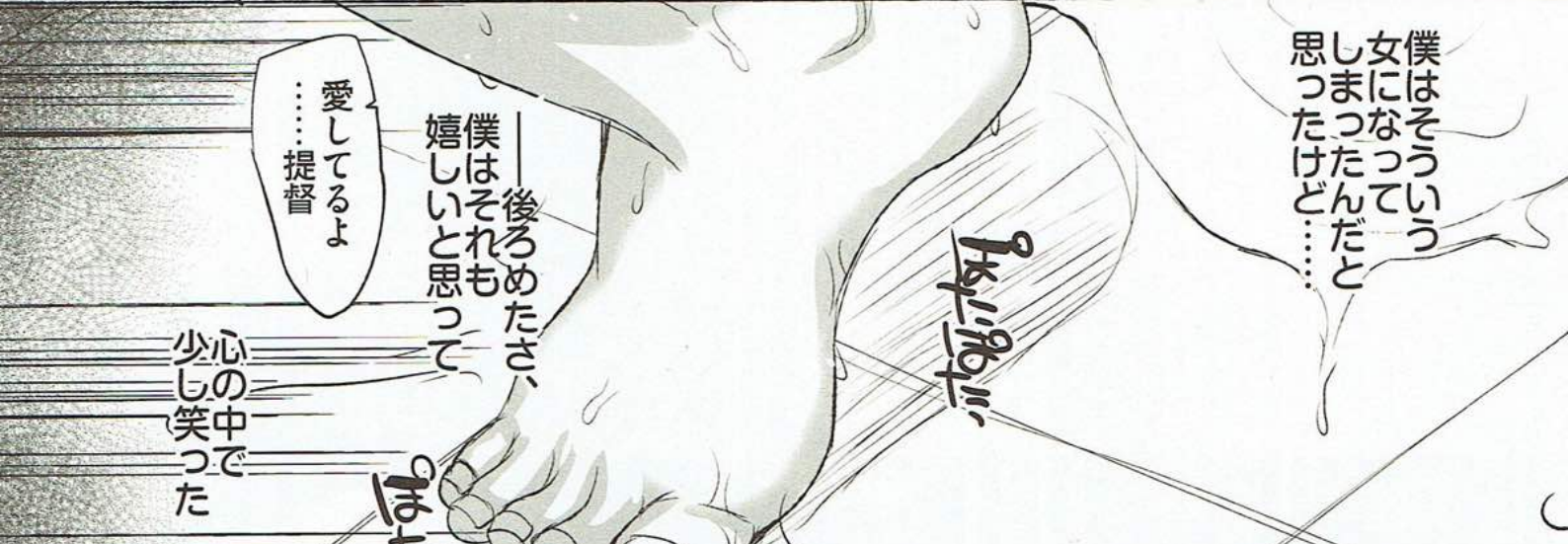
ああ、僕なら
……大丈夫だけど？



初月こそ
大丈夫か？

僕かい？

はっきりと今日の行為は
マトモじゃなかった
けれど……



僕はそういう
女になつて
しまったんだと
思ったけど……

後ろめたさ、
僕はそれも
嬉しいと思つて

愛してるよ
……提督

心の中で
少し笑つた

INST
ADULT ONLY

TITLE : LOVE IS THE DRUG
CIRCLE : INST
AUTHOR : Interstellar
DATE : 17/04/29
PRINT : Ueno Printing Co., Ltd
WEB : <http://instovdr.sakura.ne.jp/>
MAIL : instovdr@hotmail.com